

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
看護学領域別特別研究	<p>本科目は、看護管理学、基礎看護学、母性看護学、小児看護学、成人看護学、がん看護学、老年看護学、精神看護学、地域看護学の9分野から構成する。</p> <p>1年次および2年次の講義・演習の成果を前提にして研究指導教員が担当して開講する。この場合、学生が探究するテーマによっては、学生個々の指導体制に応じ、サポートする教員となる副指導教員、研究指導補助教員の支援も受けることがある。</p> <p>文献検討や研究素材、研究の経過、成果報告をめぐって、教員、学生による討論などをふくめ修士論文作成に至る一連のプロセスに関して指導する。</p> <p>(伊豆上 智子 教授)</p> <p>目指す看護サービスの提供に向けて、課題を明確にして具体的な解決策を吟味し、解決策の実行過程と結果を評価する一連の看護管理実践について、学生の研究関心から文献検討や討論を通じて研究課題へ焦点化し、研究計画を立案して修士論文を完成するまでの全過程を支援する。</p> <p>(岡村 典子 教授)</p> <p>“看護におけるコミュニケーション(感情活用)・人間関係”、および“基礎看護学、看護技術学”に関する課題について、学生が関心を持っている問いを研究課題へと焦点化し、修士論文として完成に至るまでの全過程を支援する。</p> <p>(常盤 洋子 教授)</p> <p>母性意識の形成・発達、育児支援の開発と評価、助産ケアの開発と評価に関する研究課題について、学生が関心を持っている問いを中心に討論や文献検討を通して学術的問い・研究課題への焦点化し、倫理的配慮をふまえた研究計画の立案、データ収集・データ分析、修士論文の完成までの一連の過程を支援する。</p> <p>(大久保 明子 教授)</p> <p>子どもと家族を対象とした看護援助、いのち教育や小児看護学教育に関する学生の関心を、文献クリティークやディスカッションを通して研究課題として明確化させ、研究計画書の作成から修士論文作成までの一連の研究プロセスを指導する。</p>

(高柳 智子 教授)

周手術期や急性期～回復期にある患者・家族への看護に関する研究課題について、指導する。文献検索、クリティーク、討議を通して学生の研究テーマの明確化を図り、研究計画書作成、データ収集・分析、修士論文作成までの一連の過程において、学生個々の学習ニーズをふまえて支援する。

(石田 和子 教授)

がん患者・家族の心理的適応と効果的な介入法・看護管理・教育・支援に関する課題、化学療法を受ける患者・家族の症状マネジメントと対処方法・セルフケアに関する課題、がん終末期患者・家族に関する課題を指導する。がん看護学に関する研究課題を設定し、研究計画書の立案、データ収集と分析、研究論文の作成を指導する。

(酒井 禎子 准教授)

主に、がん看護、緩和ケア、エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる課題について、学生個々の問題意識を特定の研究課題として焦点化すること、そのねらいに適した研究的アプローチを選択すること、また得られたデータから看護実践に寄与する知見を得るまでの分析・考察などを含む、修士論文作成までの一連の研究プロセスを指導する。

(樺澤 三奈子 准教授)

がんの診断・治療期から終末期に至るまでの様々な段階にあるがん患者とその家族が抱える問題について、研究課題の焦点化、計画立案、データ収集、分析・考察、論文作成という一連の研究プロセスを指導する。

(小長谷 百絵 教授)

高齢期の健康課題を研究的な視点で見つめ、高齢者とその家族の尊厳を守るための伴奏支援をめざした看護サービスについて多面的に探求する。

(原 等子 准教授)

高齢者ケア現場のケアの質向上に向けた実践、高齢者の家族ケア、認知症ケアにかかわる課題について、学生の関心に合わせ自主性を尊重し研究プロセスに基づいて計画的に進めることができるよう支援する。

(谷本 千恵 教授)

精神看護領域に関する課題やピアサポート、コミュニティメンタルヘルスに関する課題についての学生の関心を、文献検索、クリティーク、ディスカッションを通して研究課題として明確化し、修士論文作成全般を支援する。

(佐々木 三和 准教授)

精神看護領域に関する課題についての学生の関心を最大限に尊重しながら、研究計画立案、文献検索、調査、データ分析等の助言を行い、一連の研究プロセスを学ぶことができるよう研究指導教員と連携しながら指導する。

(徐 淑子 准教授)

主として精神看護学領域に関わる諸問題について、研究指導教員と連携しながら、健康社会学的観点からの指導を行う。医療の社会・文化的背景、保健行動（予防的保健行動、病気対処行動、受療行動、求助行動等）、ソーシャルサポート、ソーシャルキャピタル、首尾一貫感覚等のテーマを、学生各自の研究課題となる看護学上の具体的問題に適用・関連づけて発展させられるよう、ともに探求していく。

(高林 知佳子 教授)

地域看護学の講義・演習を通し、学生が感じた学問的関心を十分に発展させた上で、研究テーマの決定に導く。学生の自主性を尊重しながら、研究計画立案、文献検索、調査、データ分析等の助言を行い、修士論文として完成するまで指導する。

(永吉 雅人 准教授)

近年看護研究において、様々な統計的手法を用いた量的研究の重要性がより一層高まっている。このような状況において、量的研究を実施するにあたり、研究計画立案、文献検索、調査方法、データ分析等の助言を行い、研究プロセス全般にわたり研究指導教員と連携しながら指導する。

(西川 美樹 講師)

母性看護学・助産学領域に関わる学生の関心や疑問に基づき、研究テーマとなる課題を明確化し、研究計画の立案、データ収集、データ分析、修士論文完成までの一連の過程を研究指導教員と連携しながら指導する。